

徹底討論

議員提出議案第1号 議員定数条例の一部改正

反対討論

能勢 誠 議員

類似市との数字だけの比較では小林市の現状と乖離を感じる。議案を精査し、予算を読み込み、前年度と比較するなど議会の監視機能と政策提言が重要。議員に求められる資質と能力を向上させずしての定数削減は由々しき事態になることを踏まえ反対。

竹内 龍一郎 議員

大幅な議員定数の削減は、議会の責務である行政の監視・審査が適正に行えるか危惧される。さらに市長と議会は車の両輪と言われるが、バランスが崩れるおそれも生じる。また、常任委員会の重要性を考慮すると、最低6名で3常任委員会での18名体制を望む。

前田 隆博 議員

議員削減は市政の監視機能の低下を招き、現在の多忙な議会運営下で2委員会化は当局の負担増となる。地域の課題にも目が行き届かなくなる。人口減に伴って他の様々なものを見直していくべきで、議員の数だけ減らし何が変わるのか。よく考えてこの問題に向き合うべき。

大迫 みどり 議員

定数条例は議員自ら提案するもの。今の19人で執行部に太刀打ちできているのか。追認機関になっているという市民の声もある。16人でやっていけるのか。最低でも3委員会に6人ずつは必要で、執行部に提言するためにも今の定数が必要。3人も減らすべきではない。

賛成討論

小川 真 議員

875件の市民アンケートを重く受け止める。人口減少の現状により定数3名減は妥当であり、市民の望みである。それを叶えることが最大の市民サービスで議員の仕事である。議員が多くいても市の生産性が上がるわけではない。3常任委員会は可能。定数3名減に賛成。

野田 利典 議員

議員の資質は議案に対する調査や分析を通して市民サービスが妥当かを審査できるかである。若い世代や女性議員を増やそうとする取組は他市町村でも行われている。16名に減っても議員が学習し政策提言を行い対策を施す。議員活動や委員会の見える化で議会改革を行う。

原 勝信 議員

議会基本条例にもある住民福祉の向上と開かれた議会は議員の役目である。任期4年間で小林市の人口3,000人以上が減少となる。人口約2,230人に1議員の割合からも1名以上の削減が必要になる。今後歯止めなき定数削減とならないようお願い賛成。

有木 将吾 議員

急激な人口減少が続く本市において定数の削減は避けられないと思う。定数が減れば出馬する人が少なくなるとの議論もあるが、やる気のある方はどのような状況であっても立候補する。政治家が身を切る改革をしてこそ市民から信任され、市長とも堂々と議論できる。